



神奈川県

KANAGAWA

神奈川の明るい未来へ

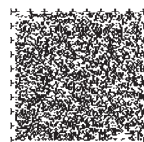
聞かせてください、あなたの
声

新かながわグランドデザイン 評価報告書2025(概要版)

New Kanagawa Grand Design Evaluation Report 2025 -Digest Version-

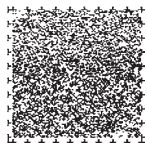
活字文書読上げ装置で、
情報を音声で
聞くことができます。

音声コード



目次

はじめに	1
プロジェクト1 子ども・若者	2
プロジェクト2 教育	3
プロジェクト3 未病・健康長寿	4
プロジェクト4 文化・スポーツ	5
プロジェクト5 観光・地域活性化	6
取組紹介 三浦半島をまるごと！ とことん！楽しもう！	7
プロジェクト6 経済・労働	8
取組紹介 集まる技術、広がる未来。 宇宙県かながわが描く、宇宙の“これから”	9
プロジェクト7 農林水産	10
プロジェクト8 脱炭素・環境	11
プロジェクト9 生活困窮	12
プロジェクト10 共生社会	13
プロジェクト11 暮らしの安心	14
プロジェクト12 危機管理	15
プロジェクト13 都市基盤	16
取組紹介 地域を元気にする道の駅の整備を 進めています！	17



はじめに

Q 「新かながわグランドデザイン」とは？

A 県政を運営するための総合的かつ基本的な指針を示した「総合計画」です！

総合計画 = 基本構想 + 実施計画



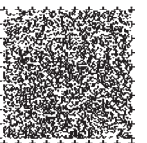
2040年を展望した
神奈川の将来像や県の政策の
基本方向



2024年度から2027年度までの
4年間に県が取り組む重点施策
「13のプロジェクト」



左の二次元コードから、新かながわグランドデザインの基本構想、実施計画をご覧ください。概要版、子ども向けのわかりやすい版、スライド形式で簡潔にまとめたダイジェスト版、外国語版もご活用ください。



子ども・若者

～子ども・若者が明るい未来を描けるかながわ～

安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる環境、子どもや若者が希望を持てる社会——。この実現に向けて、県では子どもや保護者の目線に立った保育環境を充実させたり、子どもの気持ちに寄り添いながら声に耳を傾ける取組などを進めます。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

待機児童問題が未だ解消に至っていないため、今後の動向を注視する必要がありますが、かながわ子育て応援パスポートの協力施設や、子どもの意見をさくための意見表明等支援員の登録者などは順調に増加しています。

今後の課題と対応の方向性

- 意見表明等支援員の登録者や医療的ケア児等コーディネーター養成研修の修了者は、その増加数だけでなく、活動状況や成果も把握する必要があります。
- 児童虐待相談の対応件数が増加傾向にあるため、引き続き動向を注視する必要があります。

Pick Up!

待機児童ゼロに向け、受け皿の確保を強化します

待機児童数

222 → 188 → 138 → 138^(人)
(2022) (2023) (2024) (2025) (見込値)

保育所の整備を進めていますが、「待機児童ゼロ」の目標には届きませんでした。引き続き、保育ニーズの受け皿の確保に取り組みます。

目標達成率
37.8%

Pick Up!

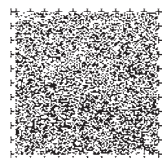
かながわ子育て応援パスポートの協力施設が増加

3,747 → 3,873 → 3,915 → 4,040^(施設)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
293.0%

かながわ子育て応援パスポートとは？

妊娠中の方や子育て家庭の外出を応援する優待サービスで、すでに約14万人が登録しています。協力施設でパスポートを提示すると、割引や景品の提供など施設ごとの特典が受けられます。



教育

～変化の激しい社会に適応できる柔軟で自立した人材の育成～

将来の予測が困難となっており、社会の多様化も進んでいます。そのため、他者を思いやり、自分の力で人生を切り開き、社会の一員として貢献できる力の育成や、すべての児童・生徒が安心して快適に学べる環境づくりに取り組みます。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

教員の働き方改革の取組により教員の長時間労働が改善傾向にあります。また、将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合が順調に増えています。

今後の課題と対応の方向性

- 外国につながる児童・生徒が増加する中、子どもや保護者が抱える課題を把握し、支援につなげていく必要があります。
- すべての子どもたちの権利が守られるよう、インクルーシブな教育をさらに推進し、誰もが公平に学べる環境を整備する必要があります。

Pick Up!

「かながわ子どもサポートドック」のしくみで一人ひとりに最適なサポートを

専門的な支援につながった児童・生徒の割合

88.6 → 88.1^(%)
(2024) (2025)

かながわ子どもサポートドックとは？

すべての児童・生徒を対象としたアンケートを学校で実施し、いじめや不登校、家庭の悩みやSOSを早期に発見する神奈川独自の仕組みです。専門家への相談や個別面談を通じて、一人ひとりに最適なサポートを届けます。

目標達成率
110.1%

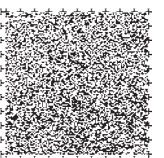
Pick Up!

仕事にやりがいを感じている教員が増えています

86.0 → 86.3^(%)
(2024) (2025)

目標達成率
107.8%

教員が授業や児童・生徒と向き合う時間を十分に確保できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざしています。



未病・健康長寿

～未病改善や医療・介護の充実による生き生きとくらす社会～

超高齢化社会の今、県では「いのちが輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川」の実現をめざしています。そのために、未病改善による健康寿命の延伸、質の高い保健・医療の提供、地域包括ケアシステムの深化に取り組めます。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

認知症の方や家族を地域で支える「チームオレンジ」が増えていることや、生活習慣病予防を目的とした「特定健康診査」の実施率が上昇傾向にあるなど、未病改善を目的とした取組が概ね予定どおり進んでいます。

今後の課題と対応の方向性

- ・従業員の健康増進に取り組む健康経営に、中小企業が負担なく取り組めるよう、支援していく必要があります。
- ・地域の高齢者が気軽に集う「住民主体の通いの場」を増やすため、活動を行っている民間企業等を周知・支援する取組を進めていく必要があります。

Pick Up!

「チームオレンジ」の輪が広がっています

91 → 146 → 175 → 192^(チーム)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
120.2%

チームオレンジとは？

認知症の方や家族の「やりたいこと」を叶えるための「応援団」のことです。認知症への正しい知識を持つ認知症サポーターがチームを組み、外出に付き添ったり、話し相手になるなど、日常のちょっとした困りごとを助け合う活動が各地で増えています。



Pick Up!

心臓リハビリテーションへの参加を促しています

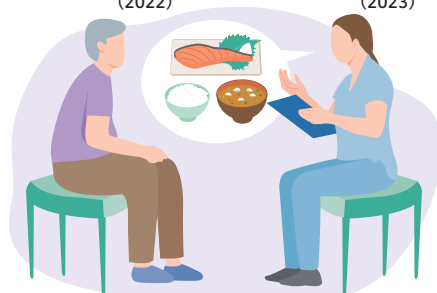
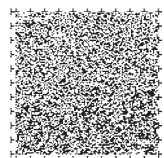
心臓リハビリテーションの実施件数

526,116 → 603,509 → 626,339 → 649,169^{(件)(見込値)}
(2022) (2023) (2024)(見込値) (2025)

目標達成率
96.7%

心臓リハビリテーションとは？

病気の再発や再入院を防ぐための総合プログラムです。運動だけでなく、食事や生活習慣の改善、薬の相談など、様々な面から健康維持をサポートします。



文化・スポーツ

～心身ともに健康で豊かな生活ができる活力ある地域社会～

人生100歳時代と言われる昨今、誰もが将来に希望を抱くことのできる地域社会の実現が求められます。いつまでも心身ともに健康で豊かな生活をおくることができるように、生きがいの機会として文化芸術活動やスポーツ活動の推進に取り組めます。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

文化芸術に関する取組では、共生共創事業の参加者の満足度が上昇しています。また、スポーツに関する取組では、満20歳以上のスポーツ実施率が低下していますが、子どものスポーツ実施率は改善傾向にあります。

今後の課題と対応の方向性

- ・共生共創事業については、高齢者だけでなく障がい者を対象とした事業にもさらに力を入れていく必要があります。
- ・スポーツ実施率を向上させるためには、年代別のスポーツ実施率を把握して、世代の特徴に応じた取組を進める必要があります。

Pick Up!

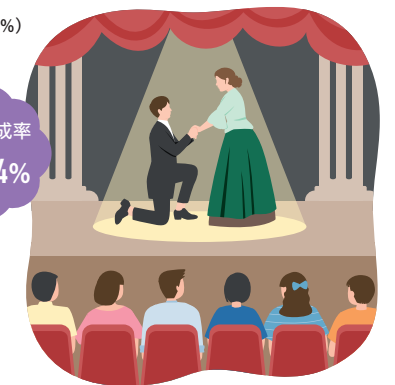
共生共創事業の参加者(出演者、観覧者等)の満足度がアップ

77.8 → 85.0 → 90.2 → 92.7^(%)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
114.4%

共生共創事業とは？

「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けて、年齢や障がいなどに関わらず、誰もが舞台芸術に「つくる側」や「楽しむ側」として参加できるプロジェクトです。



Pick Up!

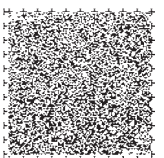
県民のスポーツ参加を促進します

県民スポーツ月間の参加者数

213,222 → 229,611 → 211,906^(人)
(2023) (2024) (2025)

目標達成率
88.2%

県では、10月をスポーツ月間と定めています。誰もが気軽にスポーツを楽しめるイベントを県内各地で開催し、スポーツ実施率の向上に取り組んでいます。



観光・地域活性化

～かながわの地域資源を生かした魅力的な地域づくり～

三浦半島地域や県西地域を中心に、神奈川でも人口減少が始まっています。そのため、観光振興を図るほか、地域の魅力などを発信することで神奈川への移住や定住につながる魅力的な地域づくりをめざします。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

観光の振興に向けた取組では、県内の宿泊者数が増加し、目標に達しています。また、移住・定住の促進に向けた取組では、働く世代（15～64歳）の社会増減数が、対都心部（東京23区）で、転入者数が転出者数を上回る転入超過に転じました。

今後の課題と対応の方向性

- 県内の宿泊者数の分析に当たっては、宿泊目的が地域ごとに異なる実態を踏まえる必要があります。
- 県内の入込観光客数の推移の分析に当たっては、他の都道府県の数値と比較するなど工夫する必要があります。

Pick Up!

もっと！泊まりたくなる神奈川へ

延べ宿泊者数

2,209 → 2,827 → 2,609 → 2,721
(2022) (2023) (2024) (2025) (万人泊) (速報値)

2025年度は目標を259万人上回る2,721万人（速報値）が県内に宿泊しました。今後も、観光客の県内周遊促進や、消費単価の向上に取り組めます。



Pick Up!

神奈川への移住を徹底サポート

移住施策を利用して移住した人数

222 → 311 → 370 → 370
(2022) (2023) (2024) (2025) (人) (見込値) 目標達成率 159.4%



専門のコンシェルジュによる相談や現地案内を通じ、神奈川の住環境の魅力を発信しています。こうした地道な活動が、神奈川県への移住を検討するきっかけとなっています。

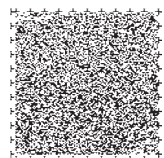
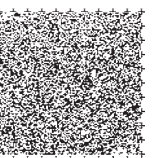
取組紹介 ▶ プロジェクト5 観光・地域活性化



三浦半島をまるごと！とことん！楽しもう！

歴史や文化が息づく魅力あふれる三浦半島では、まち全体を一つの「ホテル」に見立てた新しい旅のスタイル、「地域まるごとホテル@三浦半島」を推進しています。

この取組では、地域の宿を「客室」、地元で愛される食堂を「レストラン」とすることに加え、地元料理人の仕入れに同行できるツアーや農作業体験など、その土地ならではの温かな交流を体験できます。「地域に溶け込む旅」の体験は、日帰りでは味わえない新たな魅力を発見するきっかけになります。「何度も三浦半島に訪れたい」——そう思っただけのような、魅力ある地域づくりをこれからも推進していきます。



経済・労働

～県内産業の活性化と多様な人材の活躍促進～

めざす姿は、一人ひとりが輝きながら働き、県内の経済が持続的に発展すること。そのために、県外や国外から企業を誘致することによる産業競争力の強化や、障がい者や外国人など多様な人材が活躍できる環境づくりなどに取り組みます。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

県外や国外からの企業誘致や県内企業の投資の促進、多様な人材の活躍促進に向けた取組が予定どおり進められています。

今後の課題と対応の方向性

- 中小企業のデジタル化に向けては、中小企業が抱く課題を把握したうえで支援に取り組んでいく必要があります。
- 障がい者雇用の理解促進に向けた研修等への参加者数を増やすためには、企業のニーズも踏まえた研修内容を検討する必要があります。

Pick Up!

企業誘致が進んでいます

企業立地支援件数

51 → 102^(件)
(2024) (2025) 目標達成率 102.0%

PRサイトや企業向けセミナーを通じて、企業誘致策「セレクト神奈川NEXT」を周知したことや、県内市町村や関係機関とも連携して企業誘致に取り組んだことにより、企業誘致の支援件数が増加しました。



Pick Up!

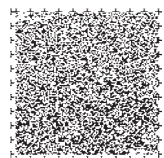
個々に合った「働き方」をサポート

県就業支援施設のキャリアカウンセリング利用者の就職等進路決定率

47.9 → 45.0 → 49.6 → 51.2^(%)
(2022) (2023) (2024) (2025)

丁寧なキャリアカウンセリングを通じて、働く意欲のある方が自分に合った仕事を見つけられるよう支援しています。特にシニア世代の職種選択の幅が広がり、就職決定に結びついています。

目標達成率 100.3%



取組紹介 ▶ プロジェクト6 経済・労働

2026年2月に
初開催した
「神奈川宇宙サミット」



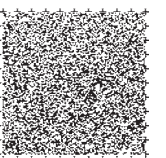
集まる技術、広がる未来。 宇宙県かながわが描く、宇宙の“これから”

2026年2月、神奈川県は首都圏の自治体として初めて、大規模な宇宙ビジネスカンファレンス「神奈川宇宙サミット」を開催しました。JAXAの相模原キャンパスに加え、人工衛星の設計・製造を支える高い技術力を持った企業が集まる神奈川県は、「人工衛星と言えば神奈川」と言われる、まさに「宇宙ビジネスの最前線」です。



©S/O2
神奈川県宇宙応援アンバサダー
「宇宙なんちゃら こてつくん」

県では、相模原にある企業交流拠点「KANAGAWA Space Village」を中心に、新しい技術やビジネスの誕生を強力にバックアップしています。さらに、展示会への出展機会の提供などを通じて、宇宙の技術を地上のくらしにも活かす「デュアルユース型ビジネス」の創出を支援するとともに、次世代を担う子どもたちへ「夢」を届ける広報・イベントも実施していきます。



農林水産

～地産地消の推進による持続可能な農林水産業の実現～

担い手の減少や高齢化に加え、生産資材の価格高騰など、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。食料を安定して生産する基盤をつくり、魅力ある農林水産物の利用を拡大していくためにも、スマート技術の開発やブランド力の強化などに取り組みます。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

農林水産業の担い手の確保など、長期的な課題はありますが、農地集積などの取組については順調に進んでいます。

今後の課題と対応の方向性

- 農林水産業の担い手の確保に当たっては、若者に興味を持ってもらえるような取組を検討する必要があります。
- 営農継続に向けた支援や地域の特色に合わせた農業支援を検討する必要があります。
- GREEN×EXPO 2027の開催に向け、より一層の機運醸成に取り組む必要があります。

Pick Up!

意欲ある担い手への農地の集積が進んでいます

農地集積率

24.2 → 25.1 → 25.8 → 26.1^(%)
(2022) (2023) (2024) (2025) (見込値)

目標達成率
101.5%

農業の効率化や安定化に取り組む「意欲ある担い手」への農地集積が進んでいます。

農地の集積とは？

農地の所有や借入により、利用する農地面積を拡大することを指します。その面積割合のことを農地集積率と言います。



Pick Up!

みんなでつなぐ！里地里山を次世代へ

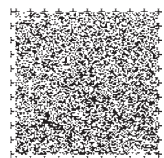
県民が里地里山の保全活動等に参加する人数

7,520 → 8,100 → 8,404 → 8,700^(人)
(2022) (2023) (2024) (2025) (見込値)

目標達成率
112.9%

里地里山とは？

農地や山林、集落が一体となった地域のことで、農林業による生産や豊かな自然、生き物を守るだけでなく、災害の防止や地域に根付いた生活文化の伝承といった役割も担っています。



脱炭素・環境

～未来のいのちや環境を守る脱炭素社会の実現をめざして～

地球温暖化による異常気象などの影響が既に現れており、温室効果ガス排出量の削減が必要です。そこで、県民や企業による省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入・利用などを後押しするとともに、温室効果ガスの大規模排出事業者でもある県庁が率先して取り組みます。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

省エネルギー化や太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入に取り組んだことなどから、県内の温室効果ガス排出量を2030年度に50%削減するという目標に対し、31.5%削減となりましたが、国際情勢の影響など、今後も動向を注視していく必要があります。

今後の課題と対応の方向性

- 国際情勢の影響による石炭火力発電割合の増加の懸念や、AI需要の拡大に伴う電力消費量の多いデータセンターの増加にも留意しながら取組を強化する必要があります。
- 脱炭素を意識した取組を行っている県民が増えるよう、普及啓発の取組を一層推進していく必要があります。

Pick Up!

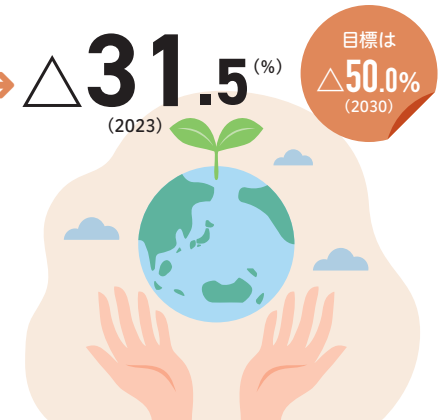
さらなる温室効果ガス排出量の削減をめざします

温室効果ガス排出量の削減割合

△19.3 → △17.7 → △24.0 → △31.5^(%)
(2020) (2021) (2022) (2023)

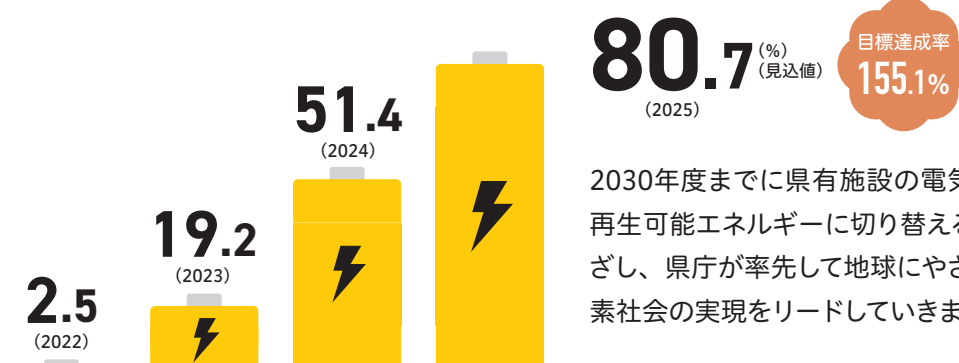
目標は
△50.0%
(2030)

県内の温室効果ガス排出量は減少していますが、2030年度の目標達成にはさらなる努力が必要です。省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を加速させていきます。

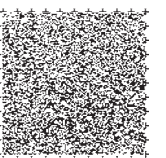


Pick Up!

県有施設の電力利用で再生可能エネルギーへの切り替えが進んでいます



2030年度までに県有施設の電気を100%再生可能エネルギーに切り替えることをめざし、県庁が率先して地球にやさしい脱炭素社会の実現をリードしていきます。



生活困窮

～誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくり～

新型コロナウイルス感染症などによる影響で、これまで社会に見えていなかった「生活困窮者」が明らかとなりました。困窮に陥っても声を上げない・上げられない人にも支援が行き届き、誰もが自分らしく前に進むことができる地域づくりに取り組みます。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

困難な問題を抱える女性への支援、孤独・孤立に悩む方への社会とのつながりの支援といった取組は予定どおり進められています。一方で、子どもの貧困化や、急激な物価高騰などの社会環境の変化に伴い生活保護家庭が増加しているという課題があります。

今後の課題と対応の方向性

- ・困窮家庭への支援については、支援団体だけでは活動には限界があるため、官民の役割分担等を明確にしたうえで、連携を深めていく必要があります。
- ・子どもの貧困化や単身世帯の困窮増加など、数値に表れない困窮も見逃さずに対策に取り組む必要があります。

Pick Up!

一人ひとりに寄り添い、自立への一步を応援

新規支援プラン作成数の割合

37 → 49 → 37 → 37^(%)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
74.0%

生活に困りごとを抱える方へ新たな支援プランを作成した割合は横ばいでした。これからも、他制度との連携も含め、一人ひとりの状況に合わせたきめ細かな対応に努めます。



Pick Up!

LINEでつながる安心が拡大

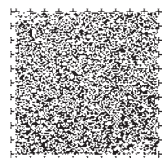
「かながわひとり親家庭相談LINE」の友だち登録数

4,564 → 5,387 → 6,172 → 6,769^(人)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
143.5%

かながわひとり親家庭相談LINEとは？

ひとり親家庭の方が抱える仕事、家計、子育て、離婚に伴う不安などを、LINEで気軽に相談できる窓口です。専門の相談員がメッセージを通じて一人ひとりの悩みに寄り添い、状況に合わせた具体的なアドバイスや支援情報の提供を行います。



共生社会

～障がい、国籍、性別によらない、ともに生きる社会の実現～

価値観が多様化する現代社会において、障がいの状態や国籍、性別などの違いを互いに認め合い、尊重しあえる社会づくりが求められています。いかなる偏見や差別も排除し、誰もがその人らしくくらすことのできる地域社会の実現に取り組みます。

評価



やや遅れています

評価のポイント

「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の普及啓発や障がい児・者が望むくらしの実現に向けた取組に遅れが出ています。

今後の課題と対応の方向性

- ・障がい者支援などを促進するためには、当事者を理解する機会を増やす取組を進める必要があります。
- ・ともに生きる社会かながわの実現のためには、重度の介護や医療的ケアを必要とする方々を支える人材を確保する取組を検討する必要があります。

Pick Up!

ともに生きる社会の実現に向けて

「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度

39.5 → 29.1 → 28.3^(%)
(2023) (2024) (2025)

目標達成率
60.2%

「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念を広める活動や、障がい者の地域移行にはまだ課題があります。当事者を理解する機会を増やし、専門人材の確保を急ぐことで、誰もがその人らしくくらすことのできる地域社会の実現をめざします。



Pick Up!

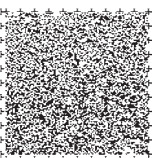
外国籍の県民も安心してくらす地域社会に

多言語支援センターかながわ対応件数

17,457^(件)
(2025)

目標達成率
79.3%

県内でくらす外国人は年々増加しています。日本語を母語としない方々の困りごとを受け止め、誰もが安心してくらすよう、多言語による相談対応や情報提供などの取組を進めていきます。



暮らしの安心

～暮らしや経済活動を取りまく脅威から県民を守る～

特殊詐欺やサイバー空間における脅威が深刻化するなか、犯罪が起きにくい社会作りに取り組みます。また、AIを活用した交通事故防止や消費生活相談機能の充実を図るなど、県民が安全で安心してらせる地域社会をめざします。

評価



概ね順調に進んでいます

評価のポイント

特殊詐欺やサイバー犯罪が増えている中、犯罪や交通事故がなく安全で、安心してらせることに関する満足度が低下しています。一方で、犯罪・交通事故防止、消費者トラブル対策などの主な事業の取組については予定どおり進められています。

今後の課題と対応の方向性

- 犯罪などの起きにくい地域社会をつくるため、防犯カメラの設置促進に向けた取組をさらに進めていく必要があります。
- 自転車の交通違反に対する「青切符（交通反則通告制度）」が導入されたことから、自転車に対する交通指導、取締りをより一層推進していく必要があります。

Pick Up!

2025年の交通事故死者数 全国ワースト

113 → 115 → 109 → 139^(人)
(2022) (2023) (2024) (2025)

2025年、県内では交通事故で139人もの尊い命が失われ、都道府県別で最多という厳しい結果となりました。これを真摯に受け止め、交通事故の実態を踏まえた事故防止対策を強化していきます。



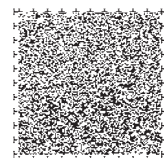
Pick Up!

犯罪被害者等への支援が進んでいます

犯罪被害者等への経済的支援や日常生活支援に取り組む市町村の数

7 → 10 → 16 → 24^(市町村)
(2022) (2023) (2024) (2025) 目標達成率 212.5%

県の専門コーディネーターによる市町村の支援制度創設の後押しなどにより、犯罪被害者等への経済的支援や日常生活支援に取り組む市町村が増加しました。



危機管理

～災害に強いかながわをめざして～

自然災害や国際情勢の不安定化、新興感染症の発生など、私たちの暮らしは様々な脅威にさらされています。河川や土砂災害防止施設の整備や非常時にも対応できる医療提供体制の構築などにより、県内に住む人だけでなく訪れた人のいのちも守る災害に強いかながわの実現をめざします。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

大規模防災訓練「ビッグレスキューかながわ」の実施などにより災害救助対応力の強化が進められています。また、道路の防災対策、土砂災害防止施設の整備などの取組が予定どおり進められています。

今後の課題と対応の方向性

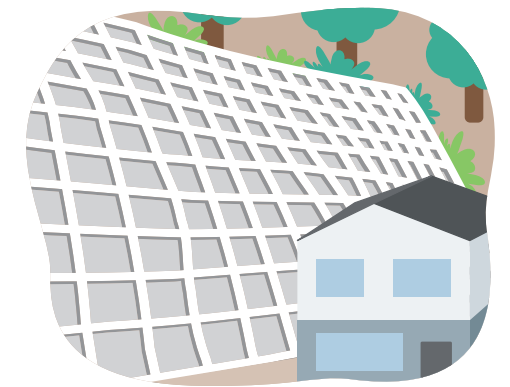
- 自主防災組織の参加人数が減少しているなど、地域の防災力の低下が懸念されているため、防災・減災対策をより一層進めていく必要があります。
- 防災に関する県への満足度が減少傾向にあるため、災害に強いまちづくりに向けた取組をより一層進めていく必要があります。

Pick Up!

大雨や地震から命を守る。県内各地で土砂災害対策が着実に完了

21 → 57^(箇所)
(2024) (2025) 目標達成率 105.5%

横須賀市吉倉町などの土砂災害防止施設の整備が完了しました。今後も、激甚化・頻発化する風水害や、切迫性が指摘されている大規模地震から県民の生命、財産を守り抜くため、災害に強いまちづくりを進めていきます。



Pick Up!

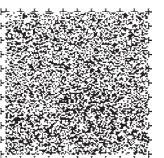
大規模防災訓練への参加が増えています

1,916 → 1,671 → 2,041 → 2,313^(人)
(2022) (2023) (2024) (2025) 目標達成率 110.1%

災害時の救助対応力の強化をめざし、2025年は三浦半島で「ビッグレスキューかながわ」を実施しました。

ビッグレスキューかながわとは？

県が医療関係機関や防災関係機関などと協力して実施する、医療救護活動を主体とした実践的な総合防災訓練のこと。



都市基盤

～持続可能な県土の形成をめざして～

県土をより良く保ち、安心してらせる状態で次世代に引き継ぐために、幹線道路ネットワークの整備や鉄道駅のホームドアの設置などにより、交通ネットワークの充実を図るとともに、県立都市公園の整備や高齢化したインフラ施設の維持管理などにより、活力や魅力あふれるまちづくりを進めます。

評価



順調に進んでいます

評価のポイント

道の駅「湘南ちがさき」を予定どおりオープンさせたことに加え、埼玉県八潮市における下水管破損に起因する道路陥没事故を受けた調査等も迅速に実施しています。さらに、県立都市公園の利用者数が順調に推移しています。

今後の課題と対応の方向性

- 「自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくり」の満足度が低下している原因を分析し、改善に向けた取組を進める必要があります。
- 道路台帳の電子化が、2年連続で目標値を下回っているため、取組を着実に進めていく必要があります。

Pick Up!

登戸駅など3駅でホームドアを新たに設置

23 → 24 → 28 → 31^(駅)
(2022) (2023) (2024) (2025)

目標達成率
100.0%

駅での転落事故を防ぐ「ホームドア」の整備を促しています。1日10万人以上が使う大きな駅を中心に設置の財政支援を行い、新たに登戸駅など3駅で完了しました。誰もが安心して電車を利用できる環境が整いつつあります。

県内の1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅数：44駅



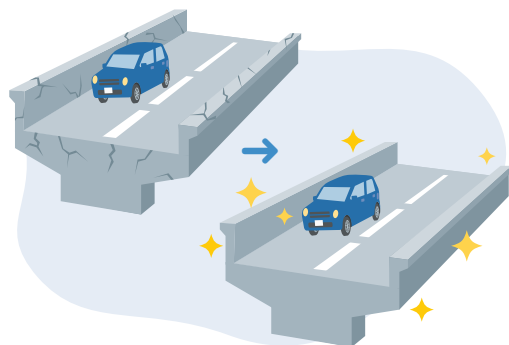
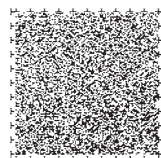
Pick Up!

「壊れる前に直す」 戦略的インフラメンテナンスを進めています

36 → 104^(箇所)
(2024) (2025)

目標達成率
99.0%

橋やトンネルの修繕を、前年度を大きく上回る箇所を着実に実施しました。引き続き、デジタル技術も活用して、使えなくなる前に対策を講じる「予防保全」を進めることで、効率的に道路施設の維持管理を行い、次世代へ安全な道路を引き継ぎます。



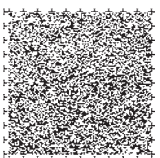
取組紹介 ▶ プロジェクト13 都市基盤

湘南地域初の道の駅
「湘南ちがさき」



地域を元気にする道の駅の整備を進めています！

2025年7月、湘南地域初となる道の駅「湘南ちがさき」が誕生しました。これは、県と茅ヶ崎市が民間事業者のノウハウを柔軟に取り入れて整備した施設で、地元の新鮮な食材や地場産品を豊富に取りそろえているだけでなく、キッズスペース等も備え、日常やレジャーをより豊かに彩っています。オープン日から227日目である2026年2月18日には、来場者数100万人を達成するなど、大変なにぎわいとなっています。道の駅は、道路利用者に休憩の場や道路、観光の情報を提供するだけでなく、地場産品等の販売を通じて地域の魅力を伝える交流拠点でもあり、地域活性化に貢献する大変魅力的な施設です。今後も、こうした道の駅の設置・運営に取り組む市町村を支援するなど、整備の促進に向けた取組を実施し、次世代へ引き継げる持続可能な県土の形成をめざしていきます。



プロジェクトの進捗状況を4段階評価

実施計画の2年目を終えたことから、各プロジェクトの進捗状況について、有識者で構成される総合計画審議会によって審議が行われ、4段階で評価を受けました。県では、総合計画審議会から指摘を受けた課題などを踏まえ、今後の効果的かつ効率的な政策運営につなげていきます。

■評価の区分

順調に進んでいます	★★★★
概ね順調に進んでいます	★★★★☆
やや遅れています	★★★☆☆
遅れています	★★☆☆☆

2025年の評価一覧

プロジェクト名	最終評価	プロジェクト名	最終評価
1 子ども・若者	★★★★☆	7 農林水産	★★★★
2 教育	★★★★	8 脱炭素・環境	★★★★☆
3 未病・健康長寿	★★★★☆	9 生活困窮	★★★★☆
4 文化・スポーツ	★★★★☆	10 共生社会	★★★☆☆
5 観光・地域活性化	★★★★	11 暮らしの安心	★★★★☆
6 経済・労働	★★★★	12 危機管理	★★★★
		13 都市基盤	★★★★

ご意見を受け付けています

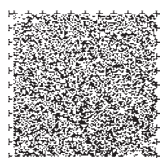
2027年（令和9年）

1月31日(日)まで

電子申請システムの
二次元コードはこちら



郵送・FAXでも受け付けています。



「新かながわグランドデザイン評価報告書2025」については、県政情報センター、各地域県政情報コーナーにおいて冊子として閲覧できるほか、ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/r5k/cnt/f4895/hyoukahoukokusho2025.html>



神奈川県

政策局政策部 総合政策課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-3061（直通） FAX.045-210-8819